

房室結節リエントリー性 頻拍とその近縁頻拍の up to date

企画：住友直方

(埼玉医科大学国際医療センター
小児心臓科)



HEART's Selection

1906年に田原淳と Ludwig Aschoff が発見した房室結節は、その後多くの上室性頻拍に関与することがわかってきた。特に房室結節リエントリー性頻拍(AVNRT)に対するカテーテルアブレーションが行われるようになり、His束の縦解離ではなく fast pathway, slow pathway の存在が証明され、さらに right inferior extension, left inferior extension, superior type fast-slow AVNRT, nodoventricular pathway, nodofascicular pathway の存在部位などが明らかになってきている。

今回の特集では房室結節および近傍の pathway の最新の知識を第一線で活躍している医師に解説をお願いした。解剖学的にこれらの存在部位はどこなのか、AVNRT の概念の最新の知見、その電気生理学的証明方法、nodoventricular pathway, nodofascicular pathway の関与の有無とその証明方法、これらの知見に基づいた AVNRT の新しい治療方法など、カテーテルアブレーションを行う医師には必須の知識を特集として取り上げた。

これからカテーテルアブレーションを始める医師から、経験豊富な医師まで、一度は目を通していただければ幸いである。